

The Language Labyrinth

Chapter 1: The Door Without a Handle

Kuon opened his eyes to a place that defied every sense he had ever trusted. The sky shimmered in shades of deep violet and silver. A soft wind passed, though there were no trees. All was still, yet something pulsed—like a heartbeat beneath the ground.

Before him stood a giant stone door, embedded into a black wall that stretched beyond the horizon. It was smooth, seamless, and entirely without a handle. There was no button, no keyhole, no knob. Just a strange inscription written in English:

“Only those who understand shall pass.”

He took a breath. Was this a dream?

A soft voice echoed behind him. “Welcome, Kuon,” it said. “You are now within the Labyrinth.”

He spun around. No one.

“What... Labyrinth?”

The voice returned, “This world responds to comprehension. English comprehension. Your ability to read, to interpret, to deduce—these are your weapons now.”

Kuon blinked. He remembered nothing: no family, no home, not even his own age. Just his name.

The inscription on the door glowed faintly. He walked closer and noticed a second message hidden beneath the surface. It shimmered into visibility as he focused:

Though unseen, the answer lies within the unseen.

“That’s... a paradox,” he muttered.

The voice again: “Not paradox. Test.”

Kuon frowned. “A test without instructions?”

“No,” said the voice. “The instructions are the language itself.”

He closed his eyes. He had studied English in school. He remembered grammar exercises, reading passages, timed exams—but nothing like this. This wasn't about choosing the correct tense. It was about seeing what the sentence meant, beyond grammar.

He reread the sentence. Though unseen, the answer lies within the unseen.

“Unseen... Could it mean invisible? Or unknown?” he whispered.

Then, as he spoke, the wall began to shift. The stone rippled like water. Words appeared—sentences, floating, each one fading into the next:

Never had he imagined a wall could listen.
Had it not been for language, the door would never open.
What lies beneath must first be understood above.

A sudden light surrounded the door. A small square glowed—a passage, finally revealed.

As he stepped through, Kuon heard the voice once more: “Comprehension is your key. Without it, you remain trapped.”

設問

1. なぜその扉は奇妙だとされているか？

- A. 光っているから。
- B. 非常に小さいから。
- C. 取っ手や鍵穴がないから。
- D. ガラスでできているから。

2. 最初の碑文は何を示しているか？

- A. ネイティブスピーカーしか通れない。
- B. 英語を理解できる者だけが進める。
- C. 扉は永遠に閉ざされている。
- D. 隠された敵がいる。

3. クオンが目覚めたときの精神状態は？

- A. 冷静で自信に満ちている。
- B. すべてを覚えている。
- C. 混乱していて記憶が曖昧。
- D. 興奮して喜んでいる。

4. この章における声の役割は何か？

- A. 命令を直接伝えること。
- B. 迷宮のルールを説明すること。
- C. 危険を警告すること。
- D. クオンの記憶を試すこと。

5. “comprehension” に最も近い意味は？

- A. 力
- B. 理解
- C. 構造
- D. 通信

6. “The stone rippled like water” に用いられている表現技法は？

- A. メタファー（隠喩）
- B. シミリー（直喩）
- C. アイロニー（皮肉）
- D. 誇張法

7. “Never had he imagined a wall could listen.” の文法構造は？

- A. 受動態
- B. 倒置（強調のため）
- C. 使役構文
- D. 関係詞節

8. 以下の英文を日本語に訳しなさい: “Though unseen, the answer lies within the unseen.”

9. 以下の語を並べ替えて正しい英文を作りなさい:

/ not / he / had / imagined / the wall / could / listen / .

10. この章の主なメッセージとして最も適切なものは？

- A. クオンは脱出のための道具を見つける必要がある。
- B. 身体的な力こそが鍵である。
- C. 言語を理解することが進む鍵である。
- D. 迷宮は終わりなく危険である。

解答

1. C

2. B

3. C

4. B

5. B

6. B

7. B

8. 「目には見えずとも、答えはその“見えぬもの”の中にある。」

9. He had not imagined the wall could listen.

10. C

全訳

クオンが目を開けた場所は、彼がこれまで信じてきたすべての感覚を裏切る世界だった。空は深い紫と銀色に輝き、風は吹いていたが木々はなく、すべてが静まり返っていた。しかし、地面の下からはまるで心臓の鼓動のような脈動が感じられた。

彼の前には巨大な石の扉があり、地平線の彼方まで伸びる黒い壁に埋め込まれていた。その表面は滑らかで継ぎ目もなく、取っ手も、ボタンも、鍵穴もない。ただ英語でこう書かれていた：

「理解する者のみ、通ることができる。」

深呼吸しながらクオンは思った。「これは夢か？」

その時、背後から柔らかな声が響いた。「ようこそ、クオン。ここは“迷宮”だ。」

振り向いたが、誰もいない。

「迷宮……？」

声がまた語りかける。「この世界は理解に反応する。英語の理解力が、君の武器にな

る。」

クオンはまばたきをした。家族のことも、住んでいた場所も、年齢さえも思い出せない。ただ自分の名前だけは覚えていた。

扉の文字がかすかに光る。近づくと、扉の奥にもう一つの隠された文が浮かび上がった：

「見えないが、その中に答えがある。」

「矛盾してる……？」彼はつぶやく。

「いや、それは“試練”だ。」声が答える。

「説明もない試練？」

「説明は英語そのものにある。」

クオンは目を閉じた。学校で英語を勉強していたことは覚えていた。文法や読解問題……でもこれは違う。ただの文法ではなく、意味を“読む力”が問われている。

彼はもう一度つぶやく。「見えない……つまり“不可視”か、それとも“未知”か？」

その瞬間、壁が揺らぎ、波のように変化し始めた。文が現れ、次々と浮かんでは消えていく。

「彼は壁が耳を持つなど想像したこともなかった。」

「言語がなければ、扉は決して開かれなかった。」

「下にあるものを知るには、まず上を理解せよ。」

扉が光り、小さな四角い開口部が現れた。

彼が一步踏み出すと、声がもう一度言った：「理解こそが鍵。理解なき者は、閉じ込められたままだ。」

読解のポイント

【読解のコツ①：文脈を大事にしよう】

英語長文では、1文1文を訳すことも大切だが、それ以上に「文脈の流れ」を意識することが重要だ。特に物語文では、登場人物の心情や場面の变化を捉えることで、内容一致問題や要約問題が解きやすくなる。

【読解のコツ②：接続詞・指示語を見逃さない】

however, although, because, therefore などの接続詞は論理の流れをつかむヒントになる。また、this, that, it, they などの指示語が何を指しているのかを明確にすることで、文と文のつながりが見えてくる。

【読解のコツ③：抽象表現は具体例とセットで理解する】

抽象的な言い回し (truth, comprehension, unseen など) が出てきたときは、その直後に登場する具体例や比喻を探そう。作者が何を伝えたいのかが見えてくる。

【読解のコツ④：設問は先読みしすぎず、本文重視で】

問題を先に読む派・本文から読む派と意見が分かれるが、このシリーズのような“物語型の長文”では、本文に集中して「流れをつかむ」ほうが正解率が上がる。

【読解のコツ⑤：出てきた構文や語法を必ず復習する】

本文中で使われた構文や表現（倒置・分詞構文・仮定法など）は、入試で頻出だ。問題を解いたあとに「なぜこの構文が使われたのか？」を確認すると、次の読解がもっと楽になる。